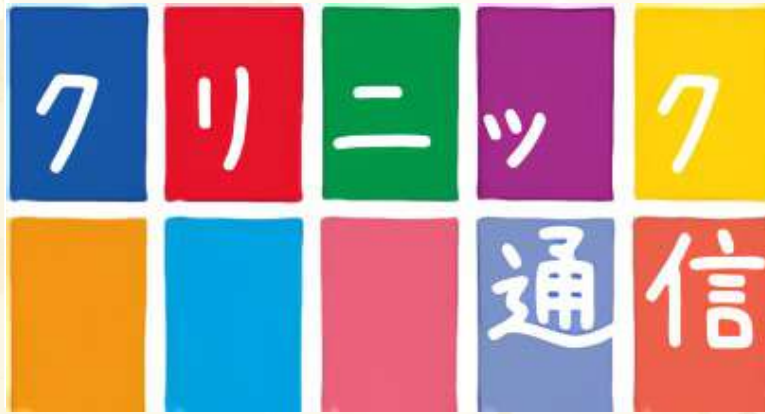


令和 4年 1月 1日  
クリニック通信 /  
NO.129 / 新春号



発行  
新小岩クリニック  
〒124-0023  
葛飾区東新小岩5-20-22  
TEL 03-3694-5621  
FAX 03-3694-5628

新小岩クリニック船堀  
〒134-0091  
江戸川区船堀4-4-24  
TEL 03-3688-9901  
FAX 03-3688-9973

## 新年のご挨拶

### 新小岩クリニック 院長 正木 一伸

新年を迎え、昨年の出来事を振り返るとともに今年のご目標を述べさせていただきます。

- ①クリニックのホームページを全面リニューアルしました。皆様ご覧いただけましたでしょうか。今後も新しい情報を随時アップしていきたいと考えています。
- ②新型コロナワクチン接種を希望された患者さんと職員全員に、2回目の接種を終了しました。3回目の接種についても、厚生労働省の指導に従って院内で接種を行う予定です。
- ③現在、透析室への電子カルテ導入を検討中です。今後もデジタル化を推進し、情報の共有と有効活用、さらに災害にも強いスマートクリニックを目指したいと思っております。

新小岩クリニックの院長を拝命してから3年が経過し、少しずつですが私が目指すクリニックの形が出来つつあるように感じています。これからも患者さんや職員とともに学び、成長していきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

### 新小岩クリニック船堀 院長 武田 之彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年はコロナ感染症の中、東京五輪が開催されました。残念ながらテレビでしか観戦できず、遠い地で開催されていたような感覚でした。日々の会議や講演もリモートで、遠距離でも参加できるようになりました。しかし、我々が行っている透析療法はリモートではできません。感染対策には十分な配慮が必要ですが、医療の本質は、患者様に直接話を聞き、ふれあいの心がなければ成り立ちません。本年は感染症対策だけでなく、昨今増えつつある地震や異常気象による災害対策等にも重点を置き、皆様が明るく安心して通院できる環境を目指し、素晴らしい1年となるようにスタッフ一同、尽力していく所存です。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

### 新小岩クリニック 副院長 西尾 信一郎

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの流行も早3年目となり、感染拡大防止の1年目、ワクチン接種の2年目、今年は何が起きるでしょうか？本稿を寄稿中の11月末は、都内での新規感染者数は10人前後と低水準で収束への期待がささやかれる中、新たな変異株の脅威が危惧されています。第6波の危機を前に我々にできることは、ワクチン接種に加え、日ごろの感染対策に尽きます。当院では、これまで培ってきた感染対策をもとに、皆さまに安全な透析医療を提供できるよう努力して参ります。患者さまにおかれましても、引き続き手洗い、院内でのマスク着用にご協力をお願いいたします。本年もよろしくお願い申し上げます。



# 新小岩クリニック船堀開設20年

院長 武田 之彦

新小岩クリニック船堀は、2001年7月1日に開設し、昨年2021年7月1日に20年を迎えました。2001年を振り返ると、アメリカ同時多発テロなど大変な出来事や、イチロー選手のメジャーMVP、ディズニーシー開園など、明るいニュースもありました。クリニック建設を一から計画し、そして開院に至るまでの苦労話を、創設者である西尾恭介先生から伺いました。新小岩クリニックからの38名の患者さまと20名のスタッフで開院から20年間、多くのスタッフの力や患者さまに支えられ、当クリニックは発展してまいりました。私は、2016年4月に赴任し、5年間と短い期間ですが、開設20年を西尾先生をはじめ、皆さまと共に迎えることができ、大変光栄に思っております。

しかし、医療も時代に合わせ刻々と変化しています。特に、近年のコロナ禍により、世の中も医療現場も、変革が必要な時期を迎えています。今を通過点と意識し、30周年、40周年を目指し、クリニックの新たな歴史を作る一役を担えればと考えております。

最後に、これからもスタッフ一同、日々一層の努力をし、患者さまへ安心・安全な医療を提供していく所存です。今後とも、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2001年7月1日

江戸川区船堀に  
新小岩クリニック船堀 開設

Bフロア 増設

2004年5月17日



巡回送迎サービス開始

2010年7月10日



2013年1月13日

自動プライミング・回収の  
透析機器 導入

武田 之彦 先生  
新小岩クリニック船堀院長に就任

2016年4月1日

2021年12月末までの総患者数 約3,100名  
現在の外来通院患者数 約240名

常勤医師 2名、看護部 28名、技術部 8名、  
医療部 4名(非常勤含)、事務部 4名  
総職員数 約50名

新小岩クリニック船堀  
開設20年

2021年7月1日

二十年の歴史

# 祝・透析周年記念

## 〇〇〇〇さん20周年

### 〇〇〇〇さんの談話

透析になったら人工血管と言われショックでしたが、友の会に入って親しい友達もでき、とても楽しい思い出です。20年やってこれたのも、先生方、看護師さん、技士さん、他皆様のおかげで感謝しています。これからも宜しくお願い致します。

### 正木院長

おめでとうございます。〇〇さんといえば、友の会忘年会での踊りと明るい笑顔を思い出します。コロナ禍が終わったらまた共に楽しみましょう。いつまでもお元気でクリニックに通院して下さい。

## 〇〇〇〇さん20周年

### 〇〇〇〇さんの談話

お陰様で20年を迎えることができました。コロナ禍で更なる苦労をおかけしている中、変わらぬ医療を提供して下さる正木先生、西尾先生を始め看護師スタッフの皆様には感謝申し上げます。また、支えてくれる家族に同じ気持ちを伝えたいです。ありがとう。

### 正木院長

おめでとうございます。透析導入直後から当院へ通院され、いくつか合併症による入院もありましたが、ご家族の支えもあり透析20周年を迎えられました。これからもお元気に透析にいらして下さい。

## 〇〇〇〇さん20周年

### 〇〇〇〇さんの談話

この度、透析を始めて20周年を迎えました。透析を導入した際は、不安なことも多くありましたが、先生方やスタッフの方々のサポートがあり、このように長い間透析を続けることが出来ました。これからも皆様と共に、元気に通院できるように頑張りたいです。

### 正木院長

おめでとうございます。いくつか合併症も経験されましたが、適切な治療を施され透析20周年を迎えられました。積極的に検査を受ける姿勢も長期透析の秘訣ですね。今後もお元気に通院して下さい。

## 〇〇〇〇さん30周年

### 〇〇〇〇さんの談話

早いもので透析生活30年経過してしまいました。これまで数多くの合併症を経験しました。それを乗り越えられたのも先生方、スタッフの方々に支えられたからであり、感謝しかありません。これからも自己管理を徹底して少しでも健康寿命を延ばします。

### 正木院長

おめでとうございます。30周年ということは、人生の半分以上が透析生活ということですが、お仕事とも両立されて頑張っておられますね。自己管理も十分なので、ぜひ透析50年を目指して下さい。

## 〇〇〇〇さん20周年

### 〇〇〇〇さんの談話

平成13年に透析を始めました。最初は仕事をしながら出来る腹膜透析を8年間行いました。今は血液透析で安定した生活を送ることができて、新小岩クリニック船堀の皆様のおかげです。ありがとう。

### 武田院長

20周年おめでとうございます。腹膜透析から、合併症など困難を乗り越えられてきました。日々の生活においても様々な御苦勞があったことと思います。これからもお元気で、末永くよろしくお願い致します。



## 【ちらし寿司】《材料/1人分》

### 《酢飯》

ご飯……………160g	(A)	
食塩……………0.2g	だし汁……………15g	刻みのり…適宜
上白糖……………3g	減塩醤油……………5g	甘酢漬……………3g
穀物酢……………8g	みりん……………5g	絹さや……………5g

### 《具材》

鶏モモ肉…20g	(錦糸卵)
油揚げ…3g	鶏卵……………10g
人参……………8g	上白糖……………1g
椎茸……………1g	植物油……………1g
れんこん 10g	



新小岩クリニック船堀 管理栄養士

### 《作り方》

- ① ご飯は水を減らし硬めに炊きます。
- ② ボウルにすし酢の材料を入れ、砂糖が溶けるまで混ぜ合わせます。  
①のご飯とすし酢を合わせて酢飯を作ります。
- ③ 人参・椎茸→スライス 絹さや→斜め切り れんこん→いちょう切り それぞれ茹でこぼします。
- ④ ③の材料を(A)の調味料で煮ます。
- ⑤ ボウルに砂糖と溶いた卵を混ぜ合わせ、熱したフライパンに流し込み、錦糸卵を作ります。
- ⑥ ②の酢飯と④の具材を混ぜ合わせます。
- ⑦ ⑥→錦糸卵→絹さや→刻みのりの順に盛りつけ、お好みで甘酢漬けを添えれば完成です。

## 避難訓練(震災)

昨年10月中旬、新小岩クリニックでは地震を想定し、地震発生後クリニックの外へ避難するまでの流れだけではなく、エレベーターが使用出来なかった時の誘導方法の訓練を重点的に行いました。

災害時に歩行困難な方を上層階から階段を使用し、安全に移動できる道具(イーバックチェア)を実際に使用し、スタッフが患者さま役となり、避難訓練を行いました。使い方の再確認だけでなく、患者さまの目線になることで、新たに気づくことや改善点を見つけることができました。

今回の訓練で感じたことや反省点などを危機管理委員会で話し合い、より安全に避難ができるよう今後に生かしていきたいと思えます。



### 編集後記

この1年でコロナウイルスの感染者数は多い時期は1日で6000人を超えることもありましたが、大きな影響もなく普段と変わらない生活をする事ができたのは、患者さま及びスタッフの日頃から努めている感染対策のおかげだと思えます。感染者数は減少してきていますが、未だ収束はしていません。コロナウイルスが感染拡大する前の生活を振り返り、何気ない生活ができていた事のありがたさを感じました。今はできることが少しずつ増えてきているので、充実した生活を送りたいです。

(Y.M)